

## 名誉会員候補者推薦について

日本分析化学会は、名誉会員推薦基準③項及び名誉会員推薦手続内規3項により、名誉会員候補者の推薦を受け付けております。日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規定を参照のうえ、2022年10月末日までに所属支部長にお申し出ください。また、支部長は2022年12月末日までに会長（本部）まで推薦して下さい。

機関誌「ぶんせき」2022年7月に推薦依頼の会告が行われなかったことを深くお詫びいたします。

### 『名誉会員推薦基準』

- ① 前・元会長で65歳以上（4月1日現在）の者
- ② 分析化学に関する業績により、国内又は国際的な最高の栄誉（ノーベル賞・文化勲章・学士院賞など）を授けられ、かつ本会への功績のあった者
- ③ ①、②に準ずる学問的業績及び本会への功績があり、70歳以上（4月1日現在）の者

### 『名誉会員推薦手続内規』

#### （推薦基準①の場合）

1. 会長経験者が65歳（4月1日現在）に達する場合、会長は毎年度第1回理事会（3月）において名誉会員に推薦する。但し、現職会長の場合は、次期会長がこれを推薦する。

#### （推薦基準②の場合）

2. 会員が、ノーベル賞、文化勲章、学士院賞を受賞したとき及び文化功労者に選定されたときは、会長は随時名誉会員推薦委員会を開催し、名誉会員に推薦することができる。
3. 名誉会員推薦基準③の場合は、次の手順による。
  - 1) 名誉会員は、2013年から2年ごとに推薦する。
  - 2) 会長は、名誉会員推戴時前年7月に、機関誌「ぶんせき」に推薦依頼の会告を行う。
  - 3) 正会員は、所属各支部長に名誉会員推薦基準に基づき名誉会員候補者を推薦する。なお、推薦する名誉会員候補者は、当該支部所属の正会員に限定せず、全国的視野において推薦するものとする。
  - 4) 支部長は、推薦された名誉会員候補者について支部内で十分検討した後、12月末日までに会長に推薦する。
  - 5) 会長は、理事会内に名誉会員推薦委員会を設け、各支部長から推薦された名誉会員候補者を名誉会員推薦基準に合わせて審議し、通常総会に諮る名誉会員候補者を選定する。
  - 6) 名誉会員推薦委員会は、会長、次期会長、副会長5名、の計7名で構成し、会長が議長を務める。なお、名誉会員推薦委員会構成者は、各支部長に名誉会員候補者を推薦することはできない。
  - 7) 外国人推薦の場合も、原則としてこれに準ずる。

〈以下省略〉

#### 【注記】

- a. 所定の名誉会員候補者推薦書を入用の場合は、下記支部宛又は本部総務課宛お申し出ください。
- b. 支部への推薦書提出期限：2022年10月末日

☆ ☆

#### 【推薦書類提出先】

北海道支部：〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院応用科学部門内  
東北支部：〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-07 東北大学大学院環境科学研究科先端環境創成学専攻  
関東支部：〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学理工学部分析化学研究室内  
中部支部：〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須1-35-18 中部科学技術センター内  
近畿支部：〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター内

## お知らせ

中国四国支部：〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科  
(基礎化学プログラム) 分析化学研究室内

九州支部：〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番35号 鹿児島大学大学院理工学研究科内

### 【問合先】

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号

公益社団法人日本分析化学会総務課 e-mail: shomu@jsac.or.jp, shomu2@jsac.or.jp

## 第 65 回高分子分析技術講習会（基礎編）

主催（公社）日本分析化学会高分子分析研究懇談会  
協賛（公社）日本化学会、（公社）高分子学会

高分子分析には、一次構造に分布のある高分子化合物の構造解析から高分子材料中の添加剤分析に至るまでの幅広い分析技術が必要とされます。また、高分子特有の物性のために低分子化合物の分析とは異なるコツが必要になることもあります。

本講習会では、“高分子を分析するための技術”に関する講義を前期・後期の2回に分けて行っています。

今回の基礎編では、高分子分析の初級者を対象として、実用的で基礎的な内容について講義します。理解を助けるための演習も行います。

なお、応用編は、中～上級者を対象として、より応用的な内容について講義します（次回：2023年3月予定）。

期日 2022年9月28日（水）・29日（木）

会場 オンライン配信（Cisco Webex Meetings システム）

※本講習会は、参加申し込み1件につき1名の受講が可能です。

配信内容の録画・録音や画面のキャプチャーは禁止です。

※受信環境は、2Mbps以上の速度が推奨です。お申込み前のご確認をお願いいたします。

※講師からの講義は十分な通信環境で配信いたしますが、万が一、講師の通信不良が発生した場合は、別日に再講義またはオンデマンド配信などを検討します。

プログラム

【第1日（9月28日）】

高分子分析概論（9.05～10.35）

（名古屋工業大学）大谷 肇

高分子材料は、その主成分である高分子とともに多くの添加剤や不純物を含み、高分子成分自体も複雑な分子構造と多様な集合状態を持っている。高分子分析は、こうした点にまで立ち入った幅広い解析を必要としている。そのためには、高分子そのものについての幅広い知識と分析手法についての知識の両面が必要とされる。本講では、高分子分析に必要とされる高分子の基礎知識と高分子分析法の概要について解説する。

高分子分析のための前処理技術（10.45～11.45、12.35～13.15）

（東レリサーチセンター）佐藤信之

高分子材料の有機組成分析において、分析の成否は分析機器に導入するまでの試料の前処理の適不適や巧拙に依存するところが少なくない。粉碎、溶解、抽出、濃縮・乾燥、分離、加水分解・誘導体化などの前処理の各要素技術について実務上の注意点を交えて解説し、簡単な分析例も紹介する。

（注）「高分子分析のための前処理技術」の講義中に昼休憩があります（11.45～12.35）

液体クロマトグラフィーによる高分子分析：基礎編

（13.25～15.25）

（工学院大学）川井忠智

高分子の液体クロマトグラフィーは、複雑な多分散性を有する高分子材料の解析に有効な分析手法である。前期基礎編においては、分子量測定ならびに分子量分布の解析に用いられているサイズ排除クロマトグラフィー（SEC）を中心に、化学組成分布の解析に用いられる溶離液グラジエント高性能液体クロマトグラフィー（HPLC）についても、特徴ならびに測定上の留意点や問題点についての基本を解説する。なお、実務上での留意点や特殊ポリマーの解析など、より高度な解析については、後期にて解説する。

赤外分光法による高分子分析：基礎編（15.35～17.35）

（京都大学）長谷川健

FT-IRを用いた赤外分光法は、分子のコンフォメーション、結晶性、配向、分子間相互作用などを単分子膜レベルの試料で精度よく議論可能な、線形分光法ならではの分子情報

量と測定感度の両面で抜きん出た分光分析方法である。界面や薄膜を対象とした分析に、特に優れた威力を発揮し、高分子薄膜によるデバイスの構造把握などに強力で、X線分析と相補的な役割を果たす。特に定量的に高精度な測定や議論が“官能基単位で”できるという利点まで考えると、赤外分光法は高分子分析の筆頭に立てるほどの実力を持つと言える。しかしFT-IRの普及と相反して、残念ながら赤外分光法のこうした威力はほとんど忘れ去られている。本講習では、赤外分光法の本質をゼロベースで解説し、FT-IRを使いこなそうと本気で思える基礎概念を学ぶ。特に、以下の2つの項目について解説する。

- 1) 基準振動とグループ振動、
- 2) バルク試料と界面・薄膜測定の方法と理論的表現

【第2日（9月29日）】

高分子の熱分析と熱物性：基礎編（09.05～11.00）

（昭和大学）本多英彦

熱物性はあらゆる材料で重要なパラメータであるが、特に製造から加工まで、熱が重要な役割をはたす高分子材料ではいろいろな局面で熱分析が用いられる。本講義では、熱分析の代表が示差走査熱量計（DSC）であることを踏まえて、温度変調法を含むDSCの原理と応用を解説する。加えて、放熱性、断熱性など高分子の熱的特性の高度の利用においては、熱伝導率・熱拡散率測定法を複合的に使用する頻度が高くなっており、これらの測定法についても概説する。分析技術では重要な標準化についても解説する。

核磁気共鳴分光法による高分子分析：基礎編

（11.10～12.00、13.00～14.00）

（徳島大学）押村美幸

核磁気共鳴（NMR）分光法では化学構造（官能基の種類、隣接基など）に関する情報が得られることから、有機化合物の分析手法として広く活用されている。高分子材料においても、繰り返し単位の構造や末端基（開始剤断片）、立体規則性、共重合体の組成、共重合連鎖の解析などに有用で欠くことのできない分析法である。そこで本講では低分子のスペクトルを用いて<sup>1</sup>H、<sup>13</sup>Cおよび2次元NMRスペクトルの読み方（帰属の仕方）を概説した上で、高分子のスペクトルを用いた構造解析例を紹介する。

（注）「核磁気共鳴分光法による高分子分析：基礎編」の講義中に昼休憩があります（12.00～13.00）

ガスクロマトグラフィー及び質量分析法による高分子分析：

基礎編（14.10～16.10）

（中部大学）石田康行

ガスクロマトグラフィー（GC）は、その原理からして最高約400℃程度までの分離カラム温度で、数torr以上の蒸気圧を持ち得る化合物に適用が限定されている。一方、通常の高分子材料は、添加剤等の低分子量成分を除けば、通常は蒸気圧を持たない高重合体で構成されているため、そのままではGC分析の対象とはなり得ない。したがって、これらに対しては、化学分解・熱分解による生成物をGC分析して、組成分析や構造解析が行われる。一方、質量分析法（MS）も、昨今のマトリックス支援レーザー脱離イオン化（MALDI）-MSの開発などにより、従来は測定対象とみなされなかった高分子量物質についてもその質量スペクトルを得ることが可能になってきた。そこで本講では、熱分解GCの特徴、操作上の留意点および主な適用例などを解説し、さらにMSによる高分子分析についてもその概要と最近の進歩を概説する。

講習レベル 高分子分析を始めて日が浅い方を対象として設定しています。高分子分析について、すでに経験をお持ちの方の参加も歓迎いたします。

受講料 高分子分析研究懇談会会員および日本分析化学会会員：25,000円、協賛学会会員：29,000円、会員外：45,000円、学生：10,000円。受講料はすべて税込みです。日本分析化学

会会員には、維持会員、特別会員、公益会員を含みます。特別会員または公益会員の場合は、1名の会員扱いとします。(高分子分析研究懇談会への入会を検討される方は <https://pacd.jp/nyukai> から)

募集人員 100名

**申込方法** 参加申込フォーム (<https://pacd.jp/>)に必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。請求書、振込先情報はマイページよりダウンロードいただけます。請求書は入金確認後にダウンロードいただけます。講義テキストはPDFファイルをダウンロードください。会期1週間前を目処にURLをお知らせする予定です。各分析法に関して質問および技術相談がある場合は、申込み後をお願いするアンケートへご記入ください。各講師が可能な範囲で対応いたします

※第60回応用編(2020年3月4日~5日開催)中止に伴う振替受講を希望される方は、参加申込フォームの記入欄に「振替参加券」の受付番号を明記ください。無料で受講できます。

**接続・受講方法** Cisco Webex Meeting システムを使用します。ご登録いただいたメールアドレスに招待状をお送りします。招待状に記載された「ミーティングに参加する」ボタンを押すと、接続できます。詳細な接続・受講方法は、ご登録いただいたメールアドレスに後日お送りいたします。

申込締切 9月9日(金) 17:00

問合先 アジレント・テクノロジー(株) 野上知花  
[E-mail: [pacd-koushu@pacd.jp](mailto:pacd-koushu@pacd.jp)]

### 第375回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

ワクチンや分子標的治療薬開発をはじめ、医学系・分子生物学系研究分野において、プロテオミクス研究開発は年々拡大し活発化しています。プロテオミクス分野における「質量分析を用いたタンパク質同定」にフォーカスをあて、質量分析法をより身近に感じ、手法導入から活用までのガイドとなるようなラインナップでご講演いただきます。

期日 2022年9月29日(木) 13:00~17:05

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 タンパク質同定のための質量分析

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13:00~13:05)

(農研機構) 高橋亜紀子

1. プロテオーム解析の基礎と新技術による発展(13:05~13:40)

(サーモフィッシュャーサイエンティフィック(株)) 永島良樹  
(LC/MS分析士初段)

2. メタルフリーカラムを用いたタンパク質分析(13:40~14:15)

((一財)化学物質評価研究機構) 坂牧 寛  
(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

3. タンパク質分析におけるモノリスシリカキャピラリーカラムの利用(14:15~14:50)

(信和化工(株)) 小林宏資  
(LC分析士三段, LC/MS分析士初段)

休憩(14:50~15:20)

4. クロスリンクMS法を利用したタンパク質複合体の相互作用領域マッピング(15:20~15:55)

(東京大学定量生命科学研究所) 根岸瑠美  
(LC/MS分析士二段)

5. タンパク質複合体の質量分析: NativeMS(15:55~16:30)

(日本ウォーターズ(株)) 寺崎真樹

(LC/MS分析士初段)

6. 総括「タンパク質同定のための質量分析」(16:30~17:05)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

**参加費** LC研究懇談会個人会員:1,000円, 協賛学会(日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員:3,000円, その他:4,000円, 学生:1,000円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。

**情報交換会** 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円)。締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

**参加申込及び参加費等納入締切日** 2022年9月22日(木)(入金締切時刻:15時まで)

**申込方法** 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申し込みください。お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第375回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。参加費の納入が確認できた方には、9月26日以降に①例会サイト入場URLと②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場URLをお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/23J7vTURzTL063tJ8>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341 口座名: シャ)ニホンブンセキカガクカイ [公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 農研機構 高橋亜紀子  
[E-mail: [takahashia609@affrc.go.jp](mailto:takahashia609@affrc.go.jp)]

### 第26回液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会 特別講演会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会

協賛 (公社)日本化学会, (公社)日本分析化学会

後援 (公社)日本農芸化学会

期日 2022年9月30日(金)

見学先 (株)日立ハイテクサイエンス サイエンスソリューションラボ東京 [東京都中央区新富町2-15-5 RBM 築地ビル, 電話: 03-6280-0068]

[https://www.hitachi-hightech.com/hhs/about/corporate/location/science\\_solutions.html](https://www.hitachi-hightech.com/hhs/about/corporate/location/science_solutions.html)

スケジュール

司会 特別講演会・見学会

(東日本)小委員長 (東京理科大学) 中村 洋

13:00~13:30 受付

13:30~13:35 LC研究懇談会・委員長挨拶

(東京理科大学) 中村 洋

13:35~13:55 日立ハイテクグループ紹介

(株)日立ハイテクサイエンス) 岩佐真行

14:00~14:40 見学

14:45~15:15 UHPLCに関する感度性能の可視化

(株)日立ハイテクサイエンス FS第二設計部) 伊藤正人

15:15~15:40 記念撮影, 休憩

15:40~16:20 日立ハイテクサイエンスの横断アプリケーション—海洋プラスチック・環境・メッキ・

潤滑油・電池・自動車・医薬品・食品—  
(株)日立ハイテクサイエンス

アプリケーション開発センタ) 清水克敏

16.20~17.00 アミノ酸分析における誘導体化法の使い分け  
(味の素(株)バイオ・ファイン研究所) 中山 聡

17.15~19.15 情報交換会

参加費 4,000円 (当日お支払いください)

申込方法 参加希望者は、氏名、勤務先(電話番号)、LC研究懇談会会員/会員外の区別を明記の上、E-mailにより下記宛にお申し込みください。なお、競合メーカーからの参加者はお受けできませんので、ご了承ください。

申込期限 2022年9月16日(金)17時

定員 24名(定員になり次第、締め切らせていただきます)。但し、コロナ禍によりオンライン形式に切換えさせていただきます。但し、LC研究懇談会のホームページでその旨お知らせし、定員の制限を撤廃します。

申込先 (公社)日本分析化学会・LC研究懇談会

[E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

## 第35回新潟地区部会研究発表会

—講演募集—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部、同新潟地区部会

期日 2022年11月18日(金)13時から

会場 新潟大学五十嵐キャンパス物質生産棟1F-161室〔新潟市西区五十嵐2の町8050〕対面で開催予定ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催場所や開催方式を変更する場合があります。その場合は、メール等で速やかにお知らせいたします。

プログラム

1. 特別講演
2. 一般講演
3. ポスター発表

一般講演・ポスター発表申込方法 電子メールに一般講演・ポスター発表の別、講演題目、発表者名(講演者に○印)、所属、連絡先を記入のうえ、8月12日(金)までにお申し込みください。講演要旨集作成要領をお送りします。

参加費 無料

申込・照会先 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050  
新潟大学理学部 松岡史郎〔電話・FAX: 025-262-6172,  
E-mail: matsuo@env.sc.niigata-u.ac.jp〕

## LC- & LC/MS-DAYS 2022~人財育成~

—参加者募集—

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

協賛 (公社)日本化学会、(公社)日本分析化学会

後援 (公社)日本農芸化学会

高速液体クロマトグラフィー(HPLC)及び高速液体クロマトグラフィー質量分析(LC/MS)は汎用分離分析法として分野を問わず活用され、新しいユーザーが絶え間なく誕生しています。HPLC及びLC/MSの初心者・中級者にとっては一日も早く関連技術を習得することが求められていますが、現場では様々なトラブルに遭遇し、その解決に苦勞することも稀ではありません。一方、分析値信頼性確保への社会的な高まりに応えるため、(公社)日本分析化学会は分析士資格認証制度を2010年度から創設して液体クロマトグラフィー(LC)分析士試験を実施し、2011年度からLC/MS分析士試験、2012年度から

イオンクロマトグラフィー(IC)分析士試験をそれぞれ継続して実施しています。現在までに分析士として登録された方は、2,800名に達しています。

そこで、LC研究懇談会ではHPLC、LC/MS並びに関連技術に関する専門家の養成を目指し、基礎知識の習得と情報交換を行うため、「人財育成」を2022年のメインテーマに掲げました。この研修会では、技術者・研究者・メーカー・ユーザーが一体となり、基礎から最前線までを泊り込みで勉強します。また、オーバーナイトセッションでは分離科学的な専門知識に加え、人と人との絆を改めて考える切っ掛けとして、ヒューマンネットワークの構築についても学ぶ機会を設けますので、奮ってご参加ください。なお、本研修会終了後の、①2023年度LC分析士初段認証試験の筆記試験を免除する試験、②2023年度LC/MS分析士初段認証試験の筆記試験を免除する試験(いずれも同時刻、無料)に合格されますと、当該分析士初段認証試験の筆記試験が免除される特典があります(受験料は必要です)。

会期 2022年11月24日(木)・25日(金)

会場 箱根パークス吉野〔神奈川県足柄下郡箱根町湯本茶屋139-5、電話:0460-85-8111(代表)、交通:①JR「小田原」駅から箱根登山鉄道、または②小田急「新宿」駅から小田急ロマンスカー、のいずれかで「箱根湯本」駅下車、徒歩12分または駅前ロータリーからシャトルバスで5分〕  
<http://www.pax-yoshino.com/>

プログラム

12.30~13.00 受付

総合司会

(病態解析研究所) 岡橋美貴子

1日目(11月24日)

13.00~13.05 実行委員長・開会挨拶

(東京理科大学) 中村 洋

13.05~13.15 現地世話人挨拶・施設説明

(ムラタ計測器サービス) 大塚克弘

基調講演

13.15~13.45 (座長:大塚克弘)

S0-1 人財育成の本質~高度な専門性と魅力ある

人柄の醸成 (東京理科大学) 中村 洋

第1部 専門家の分離技術(主任:熊谷浩樹)

13.45~14.00 (座長:中村 洋)

S1-2 総論 (アジレント・テクノロジー) 熊谷浩樹

14.00~14.15 (座長:熊谷浩樹)

S1-3 逆相クロマトグラフィー (CERI) 坂牧 寛

14.15~14.30 (座長:坂牧 寛)

S1-4 HILIC (クロマニックテクノロジーズ) 長江徳和

14.30~14.45 (座長:長江徳和)

S1-5 イオン交換クロマトグラフィー

(日立ハイテクサイエンス) 清水克敏

14.45~15.00 (座長:清水克敏)

S1-6 マルチモードクロマトグラフィー

(Restek) 海老原卓也

15.00~15.15 コーヒーブレイク

15.15~15.30 (座長:海老原卓也)

S1-7 イオンクロマトグラフィー

(東京理科大学) 中村 洋

15.30~15.45 (座長:中村 洋)

S1-8 超臨界流体クロマトグラフィー (花王) 森内章博

15.45~16.00 (座長:森内章博)

S1-9 二次元クロマトグラフィー

(アジレント・テクノロジー) 熊谷浩樹

16.00~16.15 (座長:熊谷浩樹)

S1-10 連続クロマトグラフィー

(ワイエムシイ) 渡部 毅

16.15~16.30 (座長:渡部 毅)

S1-11 新規カラム創製への挑戦 (信和化工) 小林宏資

- 16.30~16.45 (座長:小林宏資)  
S1-12 館内施設説明&部屋割り  
(ムラタ計測器サービス) 大塚克弘
- 17.00 チェックイン・入浴
- 17.50~18.20 景品仕分け(海老原卓也, 坂本和則)
- 18.20~20.00 夕食・情報交換会  
・司会(榎本幹司)  
・じゃんけん大会(高橋 豊)
- 20.15~20.30 会場セットアップ  
(熊谷浩樹, 清水克敏, 寺田明孝)
- 20.30 オーバーナイトセッション  
(4グループに分かれて朝まで? 討論)  
①前処理&生体試料, ②分離&カラム,  
③検出& LC/MS, ④ヒューマンネットワーク
- 2日目(11月25日)**  
7.00~8.00 朝食
- 第2部 専門家の前処理技術(主任:岡橋美貴子)**  
8.00~8.15 (座長:大塚克弘)  
S2-13 総論 (病態解析研究所) 岡橋美貴子  
8.15~8.30 (座長:岡橋美貴子)  
S2-14 水 (メルク) 石井直恵  
8.30~8.45 (座長:石井直恵)  
S2-15 試薬・溶媒 (関東化学) 坂本和則  
8.45~9.00 (座長:坂本和則)  
S2-16 溶媒抽出 (病態解析研究所) 岡橋美貴子  
9.00~9.15 (座長:岡橋美貴子)  
S2-17 固相抽出 (日本ウォーターズ) 島崎裕紀  
9.15~9.30 (座長:島崎裕紀)  
S2-18 除タンパク (第一三共) 合田竜弥  
9.30~9.45 (座長:合田竜弥)  
S2-19 超臨界流体抽出 (日本分光) 寺田明孝  
9.45~10.00 (座長:寺田明孝)  
S2-20 カラムスイッチング  
(ジエールサイエンス) 松岡秀雄  
10.00~10.15 コーヒーブレイク
- 第3部 専門家の検出技術(主任:三上博久)**  
10.15~10.30 (座長:松岡秀雄)  
S3-21 総論 (鳥津総合サービス) 三上博久  
10.30~10.45 (座長:松岡秀雄)  
S3-22 示差屈折率検出 (鳥津総合サービス) 三上博久  
10.45~11.00 (座長:三上博久)  
S3-23 吸光光度検出 大塚克弘  
11.00~11.15 (座長:大塚克弘)  
S3-24 蛍光検出 三上博久  
11.15~11.30 (座長:三上博久)  
S3-25 電気化学検出 (日本ウォーターズ) 島崎裕紀  
11.30~11.45 (座長:島崎裕紀)  
S3-26 電気伝導度検出 (産総研) 川口 研  
11.45~12.00 (座長:川口 研)  
S3-27 蒸発光散乱検出 (鳥津総合サービス) 三上博久  
12.00~12.15 (座長:三上博久)  
S3-28 ICP 検出 (フジクラ) 市川進矢  
12.15~13.00 昼食・記念撮影
- 第4部 専門家のLC/MS(主任:高橋 豊)**  
13.00~13.15 (座長:市川進矢)  
S4-29 総論  
(プレッパーズ/エムエス・ソリューションズ) 高橋 豊  
13.15~13.30 (座長:高橋 豊)  
S4-30 ESI (東洋合成工業) 加藤幸一郎  
13.30~13.45 (座長:加藤幸一郎)  
S4-31 APCI (日本食品検査) 橋田 規  
13.45~14.00 (座長:橋田 規)  
S4-32 QMS (出光興産) 村上祐子
- 14.00~14.15 (座長:村上祐子)  
S4-33 TOF-MS (日本電子) 山本敏人  
14.15~14.30 (座長:山本敏人)  
S4-34 MS/MS (東レリサーチセンター) 竹澤正明  
14.30~14.45 コーヒーブレイク
- 第5部 専門家の実試料分析技術(主任:竹澤正明)**  
14.45~15.00 (座長:竹澤正明)  
S5-35 生体成分分析 (第一三共) 合田竜弥  
15.00~15.15 (座長:合田竜弥)  
S5-36 環境分析 (栗田工業) 榎本幹司  
15.15~15.30 (座長:榎本幹司)  
S5-37 食品分析 (ハウス食品グループ本社) 神山和夫  
15.30~15.45 (座長:神山和夫)  
S5-38 医薬品分析 (エーザイ) 柿田 穰  
15.45~16.00 (座長:柿田 穰)  
S5-39 高分子分析 (三菱ケミカル) 前中佑太
- 第6部 専門家の関連知識**  
16.00~16.15 (座長:前中佑太)  
S6-40 法令遵守 (CERI) 坂牧 寛  
16.15~16.30 (座長:坂牧 寛)  
S6-41 統計処理 (ムラタ計測器サービス) 大塚克弘  
16.45~17.15 (認証専門委員:加藤幸一郎, 中村 洋)  
修了試験 4択式で10問. マークシートに解答. 無料.  
①2023年度LC分析士初段認証試験筆記試験免除試験  
②2023年度LC/MS分析士初段認証試験筆記試験免除試験
- 参加費** 25,000円(1泊3食付き). 当日, 受付にてお支払い  
ください. キャンセル料:前日から起算して21日目以前無  
料, 20日目以降20%, 7日目以降30%, 前日40%, 当日13  
時前50%, 当日13時以降100%. 主催者が延期・中止した  
場合は, キャンセル料は発生しません.
- 定員** 60名
- 参加申込方法** ①参加者氏名, ②連絡先(住所, 電話番号,  
E-mail, ③オーバーナイトセッションで討論したい(聴いて  
みたい)テーマ1つ, ④上記修了試験受験希望の有無(希望  
者はLCかLC/MSかの区分を記載. 受験予定者は2B以上  
の黒鉛筆と消しゴムを持参)を明記し, 11月9日(水)ま  
でに下記参加申込先にメールでお申し込みください.
- 参加申込先** 研修会実行委員長 中村 洋 [E-mail: nakamura@  
jsac.or.jp]. なお, 開催日が近付きましたら, LC研究懇談会  
のホームページ (<http://www.lckon.html>) をご覧ください.

### 第58回フローインジェクション分析講演会 —講演募集—

- 主催 (公社) 日本分析化学会フローインジェクション分析  
研究懇談会  
共催 (公社) 日本分析化学会近畿支部(予定)
- 期日 2022年11月25日(金)
- 会場 湊川神社 楠公会館 菊水の間他〔神戸市中央区多聞通  
3-1-1〕  
(<http://www.minatogawajinja.or.jp/>,  
<http://www.minatogawajinja.or.jp/nankou/>)
- 内容 液体流れを利用する分析法の基礎論と応用技術  
講演形式 招待講演, 一般講演(口頭), 一般講演(ポスター),  
製品・技術紹介(口頭)
- 講演申込締切 9月26日(月) 必着  
参加予約締切 10月21日(金) 必着 情報交換会の予約も含む  
講演要旨締切 10月21日(金) 必着
- 講演・参加申込要領 電子メールでお申し込みください. 件名  
は「第58回FIA講演会」とし, 講演・参加申込は以下の

(1)~(9)すべてを、参加のみの申込は(1)~(5)をお知らせください。(1)申込者氏名、(2)所属、(3)連絡先(郵便番号、住所、電話、メールアドレス)、(4)申込区分(会員、非会員、学生)、(5)懇親会参加の有無、(6)講演題目、(7)発表者氏名およびふりがな(講演者には○印)、(8)所属略称、(9)講演形式。なお、会場の都合上、ポスター発表は20件程度が上限となります。プログラムの編成上、発表形式がご希望に添えない場合もありますので、ご了承ください。

**講演要旨執筆要領** A4版2枚、余白は上下各3cm、左右各2.5cm。1行38文字×38行。図は直接挿入。1枚目の左上隅(8字×4行)は空白とし、講演題目(太字、ゴシック体など強調文字可)、1行あけて発表者名(所属略称は( )にまとめ、氏名にふりがな、講演者には○印)、1行あけて本文をお書きください。

**製品・技術紹介** 1件30,000円(口頭発表、機器・カタログ展示、要旨集への広告掲載をすべて含む)。展示ブースには電源はありません。1件につき、1名の参加費を免除。FIA研究懇談会の賛助会員および特別賛助会員の皆様には別途ご案内いたします。それら以外からの参加も歓迎いたしますので、詳細については下記にお問い合わせください。

**情報交換会** 11月25日(金)講演会終了後、湊川神社 楠公会館青雲の間にて開催します。

**講演会参加費** (いずれも当日払い) 主催共催会員(一般・予約)5,000円、当日参加(一般)及び非会員(一般)6,000円、学生2,000円。

**情報交換会参加費** (いずれも当日払い) 6,000円(一般・予約)、当日参加8,000円(一般)、3,000円(学生)

**申込・問合せ先** 〒657-0029 神戸市灘区日尾町3-1-25 サンハイツ六甲501 (株)小川商会 樋口慶郎 [電話:078-821-6610, E-mail: khiguchi@river.ocn.ne.jp]

## ——以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

### 日本金属学会オンライン教育講座「結晶学の基礎」

主催 (公社)日本金属学会  
期日 2022年8月25日(木)・26日(金)  
会場 オンライン(Zoom)による講義  
ホームページ  
[https://jim.or.jp/EVENTS/event\\_index.html](https://jim.or.jp/EVENTS/event_index.html)  
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町1-14-32 (公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係 [電話:022-223-3685, FAX:022-223-6312, E-mail: meeting@jim.or.jp]

### 初心者のための電気化学測定法—実習編(現地)

主催 (公社)電気化学会  
期日 2022年8月31日(水)・9月1日(木)  
会場 慶應義塾大学矢上キャンパス  
ホームページ  
<https://www.electrochem.jp/seminar/>  
連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル7階 (公社)電気化学会事務局 [電話:03-3234-4213, FAX:03-3234-3599, E-mail: seminar@electrochem.jp]

### 第16回プラズマエレクトロニクス・インキュベーションホール

主催 応用物理学会プラズマエレクトロニクス分科会  
期日 2022年9月11日(日)~13日(火)  
会場 国立中央青少年交流の家  
ホームページ  
[http://annex.jsap.or.jp/plasma/PE\\_files/PE\\_SS\\_2022/](http://annex.jsap.or.jp/plasma/PE_files/PE_SS_2022/)  
連絡先 〒050-8585 北海道室蘭市水元町27-1 室蘭工業大学大学院工学研究科 もの創造系領域電気通信システムユニット 高橋一弘 [電話:0143-46-5560, E-mail: ktakahashi@mmm.muroran-it.ac.jp]

### 日本放射化学会第66回討論会(2022)

主催 (一社)日本放射化学会  
期日 2022年9月15日(木)~17日(土)  
会場 東京大学本郷キャンパス  
ホームページ  
<http://www.radiochem.org/event/forum.html>  
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科 第66回放射化学討論会事務局 [E-mail: info-sorc66@ric.u-tokyo.ac.jp]

## SPring-8 シンポジウム 2022

～SPring-8 がつむぐ学術と社会のリンケージ～

主催 SPring-8 ユーザー協団体 (SPRUC), 理化学研究所  
放射光科学研究センター, (公財) 高輝度光科学研究  
センター, (予定) 東京大学

期日 2022年9月25日(日)・26日(月)

会場 SPring-8 放射光普及棟大講堂・中講堂とオンラインのハイブリッド開催

ホームページ

<http://www.spring8.or.jp/ja/science/meetings/2022/sp8sympo2022>

連絡先 SPring-8 シンポジウム事務局 (公財) 高輝度光科学研究センター (JASRI) 利用推進部 辻本 [電話: 0791-58-2785, FAX: 0791-58-2786, E-mail: sp8sympo2022@spring8.or.jp]

### 初心者のための電気化学測定法—実習編 (オンデマンド配信)

主催 (公社) 電気化学会

期日 2022年10月3日(月)～11日(火)

会場 オンデマンド (Vimeo にてストーリーミング配信)

ホームページ

<https://www.electrochem.jp/seminar/>

連絡先 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル7階 (公社) 電気化学会事務局 [電話: 03-3234-4213, FAX: 03-3234-3599, E-mail: seminar@electrochem.jp]

### 第73回白石記念講座

「攻めの操業を支えるシステムレジリエンス  
—環境の揺らぎへの対応力—」

主催 (一社) 日本鉄鋼協会

期日 2022年10月7日(金)

会場 早稲田大学西早稲田キャンパス

ホームページ

<https://www.isij.or.jp/event/event2022/shiraishi73.html>

連絡先 (一社) 日本鉄鋼協会 育成グループ [E-mail: educact@isij.or.jp]

### 第37回元素分析技術研究会

主催 元素分析技術研究会

期日 2022年11月18日(金)

会場 オンライン開催

ホームページ <https://gensobunseki.info/>

連絡先 〒113-8657 東京都文京区本郷弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属技術基盤センター先端機器系技術室 堀 吉満 [電話: 080-4200-8404, E-mail: yoshimitsuh@g.ecc.u-tokyo.ac.jp]

### 第43回国際分光学会, 第5回レーザーブレイクダウン 分光学アジアシンポジウム

Colloquium Spectroscopicum Internationale XLIII  
The 5th Asian Symposium on Laser Induced  
Breakdown Spectroscopy

主催 J-LIBS 研究会

期日 2023年6月26日(月)～30日(金)

会場 徳島大学

ホームページ <http://j-libs.org/>

### 日本分析化学会第71年会 —参加予約申込—

主催 (公社) 日本分析化学会

標記年会は、下記のように開催します。本年会に参加される方は、全員参加登録をさせていただきます。Web参加予約申込のお支払最終締切日は8月31日(水)です(クレジット決済または銀行振込)。詳細は年会ホームページ(以下、年会HPと略)を参照ください。

会期 2022年9月14日(水)～16日(金)

会場 岡山大学津島キャンパス [岡山市北区津島中1-1-1, 交通: JR「法界院」駅より徒歩約10分, または, JR「岡山」駅より岡電バス約7～10分, 岡山空港より岡電バス JR岡山駅または岡山大学筋下車(ノンストップ便は岡山駅下車)]

懇親会 9月15日(木) 18時～20時(予定)

会場 ホテルグランヴィア岡山 [岡山市北区駅元町1番5, 電話: 086-234-7000 (代表), JR岡山駅直結]

#### 【Web版講演要旨集の閲覧方法】

9月1日(木)に年会HPにて公開を予定しております。閲覧には事前参加登録が必要です。

【ご注意】 本年会へ参加登録をされた皆様は、10月15日(土)まで閲覧・ダウンロードが可能です。10月15日以降は閲覧できません。

#### 【事前参加予約申込締切日】

銀行振込・クレジット決済 Web申込締切: 8月31日(水)  
決済開始日は8月1日(月)を予定しております。

#### 【参加登録料, 懇親会参加費】

1. 参加登録料  
事前: 会員 12,000円, 学生会員 4,000円, 会員外 21,000円,  
会員外学生 7,000円 [通常: 会員 15,000円, 学生会員 6,000円, 会員外 24,000円, 会員外学生 8,000円]

2. 懇親会参加費 事前: 一般 10,000円, 学生 4,000円 [通常: 一般 12,000円, 学生 5,000円]

#### 【ご注意】

- ・会員には団体会員(維持会員)に所属する方を含まますが、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。
- ・参加登録料は税込金額です。
- ・懇親会費は、すべて税込金額です。本年会ではミキサーは開催いたしません。



## 【お問い合わせ先】

日本分析化学会第71年会実行委員会事務局  
〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1  
岡山大学理学部化学科内  
実行委員長 金田 隆  
E-mail : 71nenkai@gmail.com

## 「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

第82回分析化学討論会では、「環境における放射性物質と分析化学」、「量子ビームと分析化学」、「地域から世界へ発信する電気分析化学」、「ヘルスケアと分析化学」、「内山一美先生を偲ぶ」の5テーマを討論主題として取り上げました。また、討論主題以外に、公開シンポジウムとして、「食の安全と分析化学」を開催しました。

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。2022年度分析化学討論会特集号では、「未来を拓く分析化学～環境・資源・医療・食料問題等への挑戦」をテーマとし、第82回分析化学討論会で設けた討論主題5テーマと公開シンポジウムに関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」71巻6号及びホームページをご覧ください。

## 「分析化学」年間特集“流”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻(2023年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象：「流」に関連した分析化学的な基礎・応用に関する論文。

「分析化学」編集委員会特集  
“ウェルネスに貢献する分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2023年度(第72巻第6号)の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。

本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切：2022年10月7日(金)

特集論文原稿締切：2022年12月2日(金)

初めて書く論文は母語の日本語で！  
“第21回若手研究者の初論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2022年(第71巻)に第21回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

## 「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式(P:印刷ページ数)(単位:円)

会員の場合:  $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$  (印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円)

会員外の場合:  $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$  (印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円)

\*上記に消費税がかかります。

## ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野にお

ける研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
  - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
  - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
  - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
  - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
  - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
  - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

### 『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円（税込み）のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご利用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

### 「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。どうか、本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。